

平成23年5月29日

****知事

*****様

Tel *****

CHO 技術研究所 所長

長島 彬

日本復興に関するご提案

拝啓

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、東日本大震災後日本の電力事情は原子力発電所がますます拡大しにくくなるどころか縮小も視野に入れた政策が必要な時期になっております。その手段は第一に省エネの進行、第2に高効率な自家発電の進展などが多くの国民に支持されるところでありますが、地球温暖化防止のために、抜本的な化石燃料依存体質からの脱却政策も必要となります。

しかし、これから孫氏らが推進されようとしていますメガソーラーはその集中性が強く、日照の変化によって送電網への負荷が大きく、スマートグリッドなるさらなる設置負担を強いられる危険があり、あまり得策とは言えません。

太陽光発電の普及の原則はあくまで「分散」にスタンスを置くことが肝要であります。例えば東京都全体に小さなものを分散して同容量の発電をすれば、雲の移動速度が最大でも時速50kmなので、全体の発電が曇りの水準に落ちるのには、小1時間必要になりますが、八王子市郊外に一局集中にメガソーラーを作ると数秒で晴天時の発電電力を失うこととなります。東京都全体に分散設置させれば、徐々に曇りの発電量に落ちつき、容易に既存の他の発電設備で補完することが出来、蓄電池等の新たな投資は自ずと不要になります。

本状は太陽光発電と農作物の収穫を両立させることによって、太陽光発電の最大の欠点であります大面積が必要ということと、農村を豊かにして、食料の自給率を上げ、農家の後継者問題を解決して、近い将来江戸時代の日本のように、人類が化石燃料や原子力に頼らず、ほとんど太陽のエネルギーで生活できる社会を築くための案をご提案する次第です。どうぞ最後までお読み下さるようお願い申し上げます。

敬具

「ソーラーシェアリング」のすすめ 提案書 添付